月曜インタビュー

既存のコンクリート構造物の劣化を診断し、原因に基づいた補修工事を提案するコンクリート診断士の資格制度が01年度に創設。福井県では今年３月、全国初の機関となる県コンクリート診断士会が設立した。そこで、今注目される診断士会の設立経緯や今後の展開について、初代会長に就任した石川裕夏氏に伺った。

福井県コンクリート診断士会会長

## 石川　裕夏氏

# 全国に先駆け機関設立

# 高度な技術と知識持つ集団へ

**―コンクリート診断士とは**

20世紀は〝鉄とコンクリートの時代〟と言われてきた。しかし近年、新幹線のトンネル内や高架橋でコンクリート剥落などの事故が発生し、コンクリートへの安全性や信頼性に疑問が生じてきた。このような社会的背景もあって、日本コンクリート工学協会がコンクリート診断士資格認定制度を01年度創設、02年度から登録開始した。診断士は、既存のコンクリート構造物を公正な目で劣化の程度を診断し原因を究明、原因に基づいた補修工事を提案できる。資格取得には、コンクリートの診断・維持に関する幅広い知識や高い技術が求められる。

**―診断士会を設立した経緯は**

福井県内では当初14人が登録。資格制度ができて間もないこともあり、行政側にあまり認知されていなかった。せっかく取得した資格を活用する場がほしいと思ったが、１社では立場が弱い。そこで、友竹氏（メンテナンス調査設計）や平井氏（飛島建設）の協力も得て、今年3月に全国初の機関として正会員13人（現在24人）で設立した。この資格は多様な視点が必要になるので、会員もメーカーやゼネコン、コンサルなど多業種が集まった。

**―現在の取り組みは**

診断士に対する認知はまだまだ不十分。診断士をもっと活用して下さい、と広く呼び掛けていく必要がある。リーフレットを作成したので行政へ積極的にPRしていく。また、診断技術は日々進化していくもの。情報収集や研修する機会を設け研さんの場とし、入会している診断士と、していない診断士との差別化を図りたい。

**―今後の展開は**

コンクリート技術に関して行政からの相談窓口になること、かつ我々から行政に提案できるまでにしたい。そのためにも継続的に研修や研さん事業を行ったり、他団体と連携や情報交換など交流を深めたりして、高度な技術と知識を持つ技術者集団を目指していく。

**いしかわ・ゆうか**　1973年5月16日生まれ。大阪大学大学院卒。福井宇部生コンクリート常務取締役。